

電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	言語と文化		
英文授業科目名	cross-cultural Study		
開講年度	2008年度	開講年次	3年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-総合講義		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	湯川 敬弘		
居室	東1-607		

公開E-Mail	授業関連Webページ
t-yukawa@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>(a) 主題：言語は文化を構成するものの中でもっとも文化の特性を規定しているものである。例えば日本人の思考は日本文化、特に日本語によって規定されているが、それは日本語以外の言語とその文化の特性とを比較して初めて分かる。そうした観点から、言語と文化の関係、各代表的な言語とその文化の特性等を比較考察する。</p> <p>(b) 達成目標：日本語、日本文化の特性の自覚。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
特にないが、第二外国語の知識を新たにしておくこと

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
特になし

【教科書等】
参考書：「日本語が見えると英語も見える」（荒木博之、中公新書） 「ことばと文化」（鈴木孝夫、岩波新書） 「日本語に主語はいらない」（金谷武洋、講談社） 「比較日本語論」（柳父章、日本翻訳家養成センター）等

【授業内容とその進め方】

(a) 授業内容

授業は大きく次の5つのテーマで講ずる予定。

- 1 言語と文化についての考え方
- 2 言語と思考との関係についての諸説
- 3 中国語と中国文化
- 4 英語などインドヨーロッパ語族の言語とその文化の特性
- 5 日本語と日本文化

(b) 授業の進め方：

本来は講義であるが、単に講義するだけでなく、毎回諸君に授業についての質問及び感想を求め、質問に答えながら進める。また適宜課題を与え、それを提出させる。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

講義であるから本来は私の講ずるところを聴くことが主となるのであるが、従来の経験ではそれでは諸君があまりに受け身になるので、各区切りごとに課題を与え、それを評価の1要素とする。最終的には、講義の内容を元にして試験をする。

(a) 評価方法：

課題提出 40% 期末試験（レポート提出にすることもあり） 60%

(b) 評価基準：

すべての課題が受理されていること。

【オフィスアワー：授業相談】

随時。前もってメールで予約すること。

【学生へのメッセージ】

国際人であるためには、まず自国の文化に誇りをもち、何らかの形で自分の文化的根をもっていることが重要。

【その他】

なし